



高閣雑記 雑記頭書

高閣雑記 雑記頭書について

以前に、上野市古文献刊行会で出版された「永保記事略」、「庁事類編」、また昨年、伊賀古文献刊行会で刊行された「藤堂藩山崎戦争始末」に収録されている「京詰中日記」および各種「勤書」類、以上に加えて、今度刊行の「高閣雑記」「雑記頭書」で、上野図書館蔵の「藤堂采女家文書」のなかでまとまった文書はすべて解説されたことになる。藤堂采女（本姓保田）家は、保田采女元則を家祖とし寛永十七年、藤堂出雲高清のあとを継ぎ伊賀上野城代となり、そのあと代々城代職を家職として勤めた。「高閣雑記」は、采女家の由緒書であり、慶長六年に元則が予州板島（宇和島）で高虎に仕えた時から天明七年の采女六代元長までの記録である。「雑記頭書」は天明九年（寛政元年）から天保十年までの記録であるが、前に挙げた「庁事類編」と時期的に重なり、重複する記録もある。しかし「庁事類編」が公的な事柄についての記録が多いのに対し、「雑記頭書」は采女家の私的な交際についての記述が目につく。江戸時代中期の武家社会の様態を知ろうえでの格好の史料であると思われる。

あとがきより